

りんご栽培情報第6号

令和2年8月24日
氷見市りんご組合 版
J A 氷見市
富山県高岡農林振興センター

■ 1 生育概況と栽培管理について

果実肥大は平年並みですが、長雨の影響による褐斑病の発生も散見されます。また、高温・乾燥状態が続き、果実肥大への影響と日焼け果の発生が懸念されます。ほ場が乾燥しすぎないように、朝夕の涼しい時間帯にかん水を行ってください。特に苗木や若木については十分にかん水を行って下さい。

■ 2 今後の病害虫防除

8月下旬以降は秋雨前線による降雨で、褐斑病や炭そ病の発生が懸念されます。下記を参考に防除を行って下さい。

回数	時期	対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍数	10a当 散布量	100L当 必要薬剤(g,cc)	防除実施日 (自己記入)
15	9月2日 ～4日頃	斑点落葉病、褐斑病、炭そ病 ハマキムシ類、ヨモギエダシヤク、ケムシ類 展着剤	ストロビードライフロアブル フェニックス顆粒水和剤 マイリノー	2,000倍 4,000倍 20,000倍	500L	50g 25g 5cc	月 日
16	9月12～ 14日頃	斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす斑病 展着剤	ベフラン液剤25 マイリノー	1,500倍 20,000倍	500L	66cc 5cc	月 日
随時	褐斑病を確認 した場合	褐斑病、輪紋病、すす点病、すす斑病 展着剤	トップジンM水和剤 マイリノー	1,500倍 20,000倍	500L	66g 5cc	月 日

※防除は他作物への飛散（ドリフト）が無いように注意して散布して下さい。

※上記薬剤の使用時期は収穫前日までのため、収穫を迎える早生・中生品種の収穫は散布24時間経過後に行ってください。

■ 3 「千秋」の着色管理について

葉摘みと除袋は、8月下旬以降に実施して下さい。

■ 4 落果防止剤の散布について

収穫前落果の多い品種には、落果防止剤を散布しましょう。

散布薬剤名	使用目的	散布時期	希釈倍数	10a当 散布量	使用回数
ストップール液剤 (※1, 2)	収穫前落果防止	収穫開始予定の 25日～7日前	1,000倍～ 1,500倍	300～ 600L	2回まで
ヒオモン水溶剤 (※3)	収穫前落果防止	収穫開始予定の 21日～4日前	1,000倍～ 2,000倍	300～ 600L	2回まで

※1 ストップール液剤を2回散布する場合は10日間程度間隔を空けてください。

※2 ストップール液剤は高濃度処理で果肉が軟化する点に留意し、展着剤は加用しないでください。

※3 ヒオモン水溶剤の散布は、「つがる、千秋、秋陽、こうたろう、秋映、王林、紅玉、陽光」を対象品種としてください。

■ 5 褐斑病の発生と対策について

(1) 褐斑病の発生状況

県内のりんご園地で褐斑病の発生が確認されています。また、り病葉は薬剤がかかりにくい主幹上部の徒長枝や大枝上のヒコバエ（写真1）に多く発生しています。



写真1 大枝上のヒコバエの葉病斑 (左: 全景、右: 拡大)

現在の病斑は、秋季に見られるような黄変を伴う葉病斑（写真2）ではなく、褐色円形～不整形の病斑（写真3）です。この病斑には多量の胞子が形成されており（写真4）、二次伝染源となることが懸念されます。



写真2 秋季に見られる葉病斑

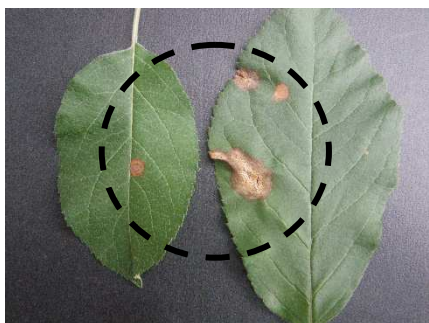


写真3 褐色円形～不整形の病斑



写真4 黒粒状の分生子堆

(2) 防除対策

薬剤散布による防除効果を高めるため、以下の対策を実施してください。

【耕種的対策】

- ①主幹上部の徒長枝や大枝上のヒコバエを整理。特に、すでに発病しているヒコバエや新梢は除去を徹底する。
- ②支柱入れ、枝つり・誘引を行い、薬剤到達性を改善する。

【防除方法の見直し】

- ①薬剤散布量は500L/10aを確実に確保する。
- ②スピードスプレヤーのコースは走行方向を逆にする等、毎回変更する。
- ③散布ムラがしやすい園地外周囲の補正散布（往復散布等）を行う。
- ④樹間が広い園地でのスピードスプレヤーの走行は、可能な限り樹冠下を通り、樹冠下を走行できない場合は速度を落として薬剤付着量を増やす。

■ 6 木材腐朽菌由来の腐朽性病害対策

- ・ 園内に発生したキノコは感染源となるので見つけ次第除去する。
- ・ 枯死樹や間伐樹はキノコの発生源となるので抜根し処分する。
- ・ 木材腐朽菌は剪定跡や主枝の背面に発生した日焼け跡から侵入するため、傷口や日焼け跡には保護殺菌剤を必ず塗布する。草刈り時には株元を傷つけないように注意する。
- ・ 腐朽が見られた場合は速やかに腐朽部を削り取り、保護殺菌剤を塗布する。

■ 7 台風対策について

今後、台風の接近による強風被害の発生が懸念されます。被害を軽減するため、以下の点に留意して対策を実施してください。

(1) 事前点検

支柱・縄の点検：大枝、わい性台木樹、若木等の支柱や結束縄の強度の点検・補強

防風施設の点検：支柱やネットなどの点検・補強

排水路の点検：明きょ、暗きょ排水路の点検・手直し

(2) 事後点検

傷口の保護：枝折れ等の傷口はきれいに切り直し、トップジンMペースト（3回以内）などを塗布する。

倒伏樹の回復：倒伏した樹は根を傷めないように引き起こし、支柱入れと根回りのかん水を行う。根の損傷はきれいに切り直し、トップジンMペーストなどを塗布する。

褐斑病等の感染拡大防止：長時間の強風後や、豪雨があった場合、台風通過後速やか（1～2日後）にトップジンM水和剤（1,500倍、前日まで、6回以内）を散布する。

※収穫時期を迎えている品種は適熟果の収穫に努め、未熟果の収穫は慎み、選果にあたっては、傷果や打ち身果の分別を徹底してください。

※落果し土壤に直接接触した果実は、かび毒（パツリン）汚染のリスクが高まることから、ほ場外に持ち出して適切に処分し、果樹共済に加入している場合は、農業共済組合の調査・確認後に廃棄してください。